

10代の秘密基地をつくる！

ユースセンター  
起業塾

未来は、つくれる。

**KATARiBA**  
*Shape the Future*

# 【PO研修】

## 実行団体選定までの道のり

### (NPOカタリバ/ユースセンター起業塾の場合)



# 01

---

NPOカタリバ/ユースセンター起業塾  
について



# 理念・団体概要

## Vision

どんな環境に生まれ育っても  
未来をつくりだす力を育める社会

## Mission

意欲と創造性をすべての10代へ

## 名称

認定特定非営利活動法人力タリバ

## 本部

東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ

## 設立

2001年11月1日（2006年9月21日に法人格取得）

## 役員

代表理事：今村久美

常務理事：鶴賀康久

理事：酒井穰（株式会社リクシス 創業者・代表取締役副社長）

：中原淳（立教大学 経営学部 教授）

：山内幸治（NPO法人ETIC. 共同創業者・シニアコーディネーター）

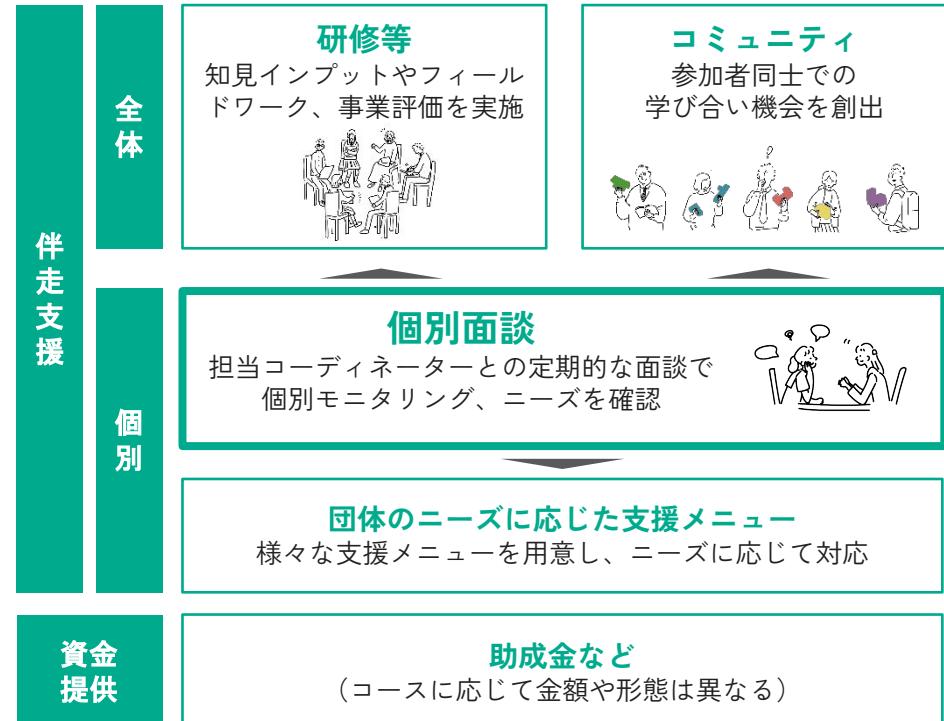
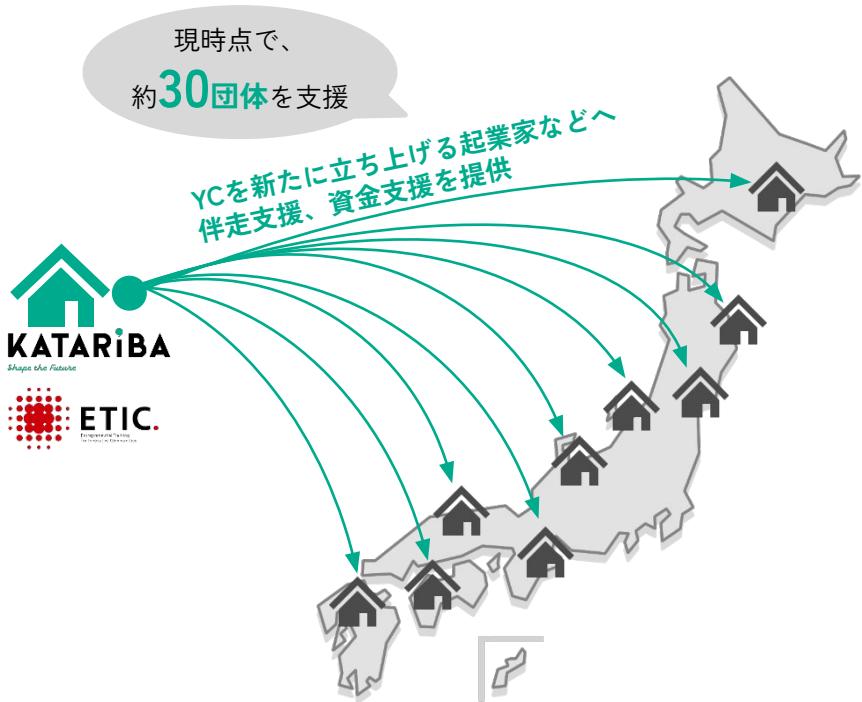
監事：神山晃男（株式会社こころみ 代表取締役社長）

：中山龍太郎（弁護士）



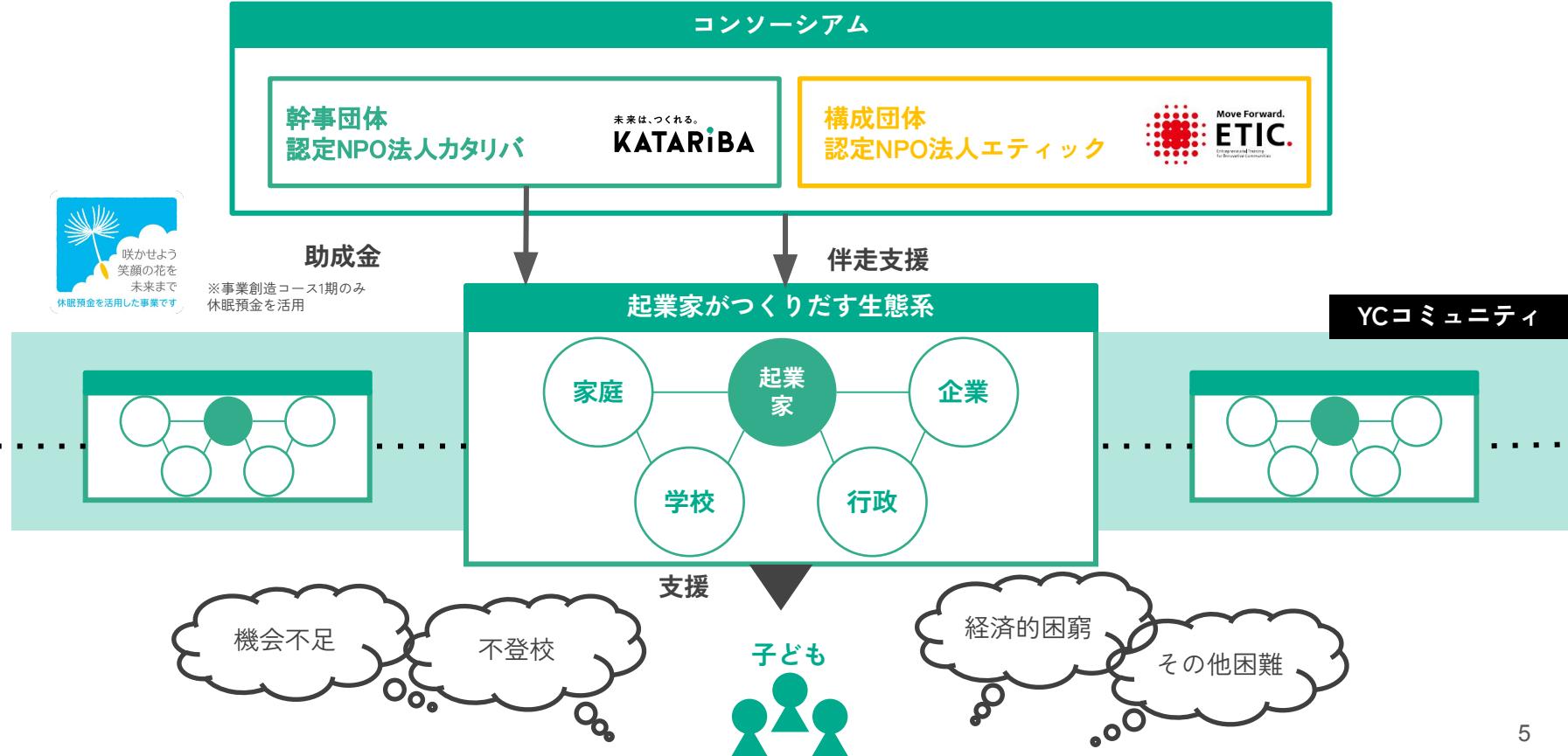
# ユースセンター起業塾（YCK）とは

全国にユースセンター(YC)がある状態を目指し、  
YCを運営してきたカタリバの知識・経験を活かした伴走支援や資金提供を実施





# 支援体制



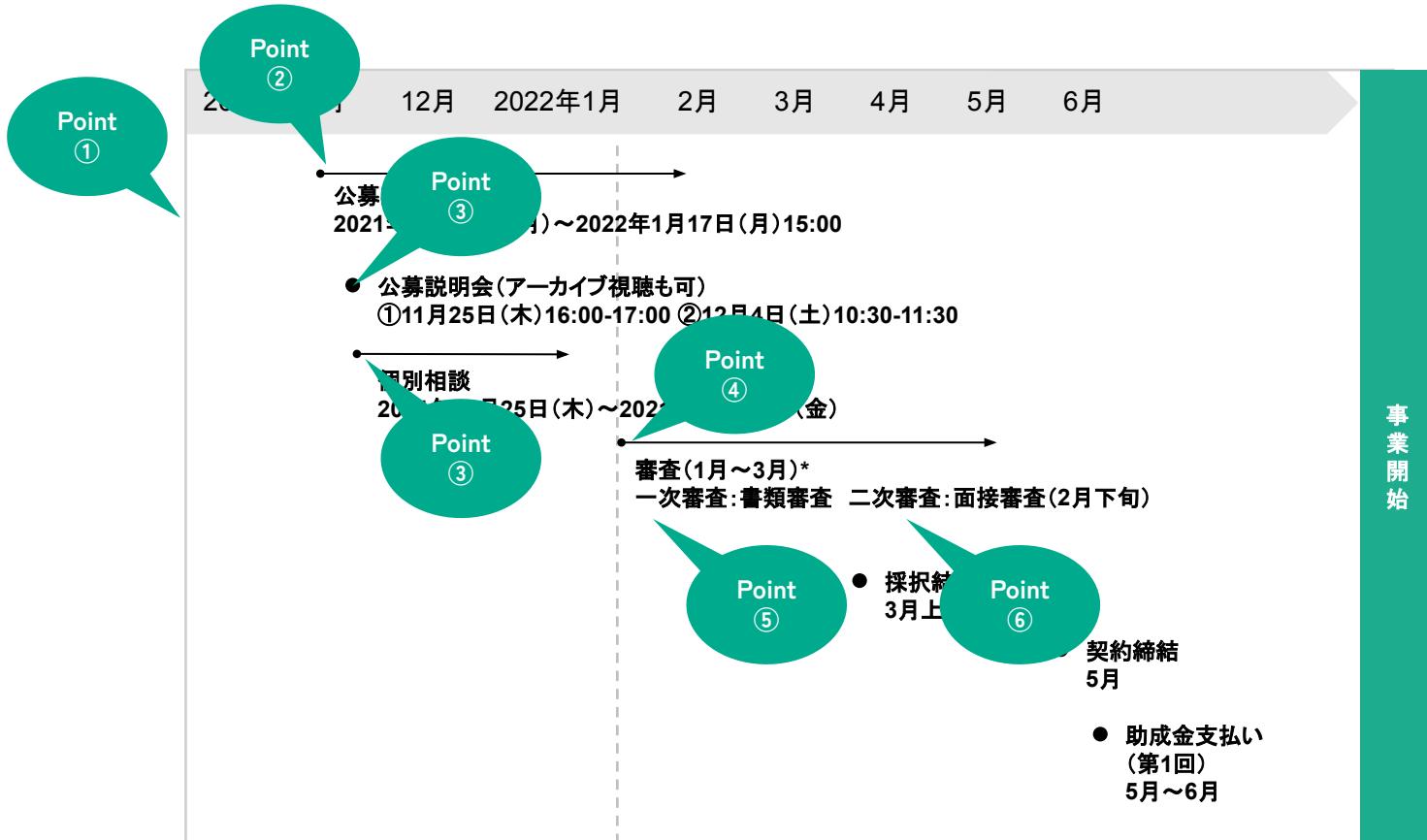
# 02

---

## 実施内容について



# 実際のスケジュール（公募要領より）





# Point①LPの作成



10代の秘密基地をつくる!  
ユースセンター起業塾

イベントや最新情報を配信するメールマガジン登録受付中!

## ■実施事項

公募開始月となる11月に情報を取りまとめたLPをオープン。メールマガジン登録をトップページで押し出した。

## ■成果

特に関係者への情報共有のきっかけができた。情報が一つにまとまっているので、その後の案内もシンプルになった。メールマガジン登録者が約200名集まった。

## ■再現性を高めるポイント

情報を集約する場所を決めておく。



## Point②公募前イベントの実施



今村 久美  
NPOカタリバ代表理事



小野寺 綾  
NPOカタリバ @岩手県,大槌町

### 地方で10代の 居場所づくりに取り組む ユースセンター起業塾 キックオフイベント

2021.11.21 Sun. 13:00-14:30  
@Online



井上 洋輔  
NPOカタリバ @島根県,雲南市



神野 元基  
株式会社 COMPASS  
ファウンダー

#### ■実施事項

カタリバの代表理事とカタリバユースセンターの現場で働くスタッフ+外部ゲストによる事例発表やセッションを中心としたオンラインイベントを実施。

#### ■成果

公募を開始するという事実を広く知らしめることができた（150名が参加）。イベント参加者を中心に応募団体の想定ができた。また、イベントへの参加者の3割程度が説明会にcvした。

#### ■再現性を高めるポイント

自団体のアセットを活用し外部人材も巻き込みながら機運を高めていく。参加者の情報分析を行う。

# Point③公募説明会と個別相談会の二段構え



## ■実施事項

公募説明会の開催直後から個別面談の希望を受付。

## ■成果

より詳細を聞きたい、確認したいという本気度の高い団体（40団体）が個別面談に参加した。個別面談に参加した団体を元に審査基準を検討した。

## ■再現性を高めるポイント

説明会からのcv先をつくる。個別面談で取得したい情報をすり合わせる。



## Point④審査基準の検討

### a. 事業責任者のリーダーシップと能力に関する基準

<b>a-1. リーダー<sup>シップ</sup></b>	<p><b>事業を立ち上げ、運営していくための意志や覚悟があるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>10代の子ども・若者を取り巻く状況の変化に向けて、事業対象地域における多様なステークホルダー（学校、行政、保護者など）と対話、協力し、中長期的に活動を継続、発展させていくリーダーシップとコミットメントがあるか</li></ul>
------------------------------------	---

<b>a-2. 基本的な事業遂行能力と成長意欲</b>	<p><b>事業を立ち上げ、運営していくための基本的な能力や経験を有すると同時に、成長していくことができるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>10代の子ども・若者を取り巻く状況や抱えているニーズを把握し、適切な学びの機会や居場所を企画・運営するための基本的な能力や経験を有しているか</li><li>多様なステークホルダーと対話、協力しながら、事業や組織を継続的に運営していくために必要な基本的能力を有しているか</li><li>活動の評価、振り返りや伴走支援の活用を通して、上記の能力を高めていく意欲とポテンシャルがあるか</li></ul>
---------------------------------	--

### b. 事業内容に関する基準

<b>b-1. 事業の実施地</b>	<p><b>事業対象地域の子ども・若者が置かれた状況や課題の構造を踏まえ、本助成事業の趣旨に合致した事業を展開する計画であるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>10代の子ども・若者が多様な学びの機会や居場所にアクセスしにくい地域における活動か（都市と地域の機会格差の解消という事業趣旨に合致するか）</li><li>地域に密着し、その地域の10代の子ども・若者やステークホルダーに深く向き合う活動か（事業対象地域は基本的に市町村単位を想定しています）</li></ul>
------------------------	---

### ■実施事項

JANPIAが提示している審査基準を元に、イベント～説明会～個別面談で取得した団体の情報も踏まえながら、ユースセンター起業塾独自の審査基準を設定した。

### ■成果

採択したい団体が明確になり、審査での目線が揃った。審査基準を元に作成されたループリックがその後も伴走支援・評価ツールとして引き継がれている。

### ■再現性を高めるポイント

ターゲットとしたい団体や事業（あるいはそのリーダー）を具体的にリスト化し、共通する条件を言語化する。



# Point⑤書類選考（事務局選考）

## 5. 審査方法

\*採点の目安

1点	全く評価しない
2点	あまり評価しない
3点	平均的な評価
4点	高く評価する
5点	非常に高く評価する

- 個人としての総合判断を「○=採択」「△=保留」「×=不採択」で評価してください。
- 「最終的に10-12件に残りうるだろうか？」という問い合わせを持ってある程度大胆に絞り込みをしていくことが大事そうですね。」

\*考え方として、ここではあくまで個人としての判断を記載してください。

「○」…個人として採択したい

「×」…個人として不採択にしたい

「△」…個人として内容の良し悪しが判断つかない、またはどちらでもよい。

- ×△をつけた数は審査シートの下にカウントがありますので参考にしてください。
- 【コメント】欄について
  - 審査実施中に気づいた確認事項・評価事項・審査会で確認したい点等を右のコメント欄に簡単に記入して下さい。
  - コメントの内容は審査会で参考にします。

## ■実施事項

選考の一環として、事務局メンバーによる選考を実施した。同時に並行で弁護士と共にガバナンス・コンプライアンス上の問題がないかを確認した。

## ■成果

採択したい団体や団体に対する解像度が高まった。ガバコン上課題がある団体について、事前に確認・対応ができた。

## ■再現性を高めるポイント

審査基準を元に審査を行う機会をつくる。ガバコンチェックリストを作成し、審査を同時並行でチェックを行う。



## Point⑥選定委員の巻き込み

※所属・肩書きはいずれも当時

**神山晃男 氏**

株式会社こころみ  
代表取締役



**豊田庄吾 氏**

海士町役場  
学びづくり特命官



**白上昌子 氏**

認定NPO法人アスクネット  
顧問



**山内幸治 氏**

NPO法人ETIC.  
シニア・コーディネーター  
/ Co-Founder



### ■実施事項

教育・起業それぞれで強みを持つ方を選定委員として巻き込んだ。

### ■成果

それぞれが意識するテーマが明確になり、審査における役割分担ができた。その後も研修やフォーラムなどの要所で関わりを持ち続けている。

### ■再現性を高めるポイント

事業に巻き込みたい人材に声をかける。どういった観点で審査をしていただきたいのかを伝える。

# 03

---

まとめ



## 伴走は仕込みが8割、かもしれない

### シンプルな流れをつくる

良い団体、事業、リーダーを逃さないためにも、採択に至るまでの道のりをシンプルでわかりやすいものにする。資金分配団体として、実行団体から試されている部分もあることを意識したい。

### ターゲットを見定める

どんな団体、事業、リーダーを応援したいのかを初期段階のうちから徹底的に分析する。言語化したものが審査基準になり、評価基準にもなっていく。

### 議論の機会を惜しまない

ターゲットにせよ、目指すビジョンにせよ、この時期に議論していくことが事業をかたどっていく。また、議論することが一番良いチームビルディングにもなる。



# 最後に

1

POの役割を担ううえで  
自分の特性を活かして  
大切にしていること

共感性が高い / 自分も現場にいた

同じ目線に立つ / 個と個で付き合う

2

「主導者・先導者」として、  
どんな行動や仕掛けから  
どんな変化を生みだしたいか

(ユースセンターを)  
共に探究する / 値値を言語化する

ユースセンターを社会の当たり前に